

# 自治会通信

No.2

発行

学生自治会  
執行部長 森田寛隆

E-mail

hirodai86@  
yahoo.co.jp

Blog



## 自治会からの学長あて「申し入れ書」を受け取らず(20日)

10月9、16日の自治会選挙で信任され誕生した森田新執行部はさっそく「大学の戦争協力を許さない」という学生の意思を大学に示すため、学長あて申し入れ書の提出を行いました(下図参照)。

20日の昼休み後、本部棟5階の学長室を訪ね、学長秘書にこの度の選挙結果と、それに基づいて越智学長に申し入れる意義を説明。しかし秘書は「学生からのいかなる面会も

取りつがない」、「『申し入れ書』も受け取らない」と言い、学生総合支援センターに対応を任せるといつて逃げ回る始末。森田委員長の、「大学の戦争協力問題は社会的焦点であり、緊急性も高い。今会えなくてもいいが、学長からの確実な回答を約束されたい」との正論に一言も反論できません。挙げ句には、「私は仕事 중이다。仕事の邪魔をしないでくれ」と、秘書が業務妨害を騒ぎ立てる始末。まさに戦争が「日常の業務」「仕事」として労働現場、教育現場から始まることこそ、安保法制定下の戦争協力問題ではないのでしょうか。

## ストライキを構えて大学と闘おう

大学の戦争協力は、第一に大学における軍事研究の全面解禁として進んでいきます。この夏、

戦後初となる、防衛省からの公然たる軍事研究の公募については、広島大学は応じませんでした。しかしこれに応じてしまった大学・研究者の個人的問題に片づけてしまっ



越智光夫広大学長

「大学からの研究費は年間100万

円。一回の実験にかかる経費は10万以上。研究費の確保が応募した理由。今回防衛省の採択で最大3000万円の予算が確保できた——こう語っているのは防衛省の公募に応じ、採用が決まった神奈川工科大学の教授です。大学に対する文部科学省からの基礎的な運営交付金は毎年削られ、防衛省・

防衛産業の求める軍事研究には、ますます巨額の予算が付いていこうとしています。大学全体を飲み込むこの傾向と闘わず、「様々な競争的資金等」を獲得していかねば、広島大学の発展はおぼつかない(越智学長談)という態度では、

申し入れ書(要旨)

広島大学学長 越智光夫 殿

1. 広島大学から戦争協力絶対反対の立場を表明すること
2. 三菱重工業相談役・佃和夫氏を経営協議会から除名すること。
3. 大学に公安警察を二度と入れないこと。

11月下旬には、以上の申し入れ内容に対する、学長の参加する公開討論会の場を設定されたい。

戦争協力拒否できる団結を！ ストライキで戦争止めよう！ 三菱重工を経営協議会から叩き出そう！

戦争協力拒否を貫くのは困難です。実際、広大内の研究室の中から、防衛省の応募に応えたいという問い合わせがあったことが明らかになっていきます。

結局のところ、戦争協力拒否を貫けるかは、礼束でほったを叩かれても「カネで学問や科学が買収されてはならない」と大学・研究者が誇り高く拒否できるか、自分たちの研究と研究がもたらす社会的影響について、どこまでも責任を引き受ける立場に立てるかの問題です。もちろん一人では難しい。だからこそ、大学の中に学生自治会・労働組合を甦らせ、研究室丸ごと、職場丸ごと闘うような、団結が不可欠なのです。

大学の戦争協力は、第二に、大学の運営を一握

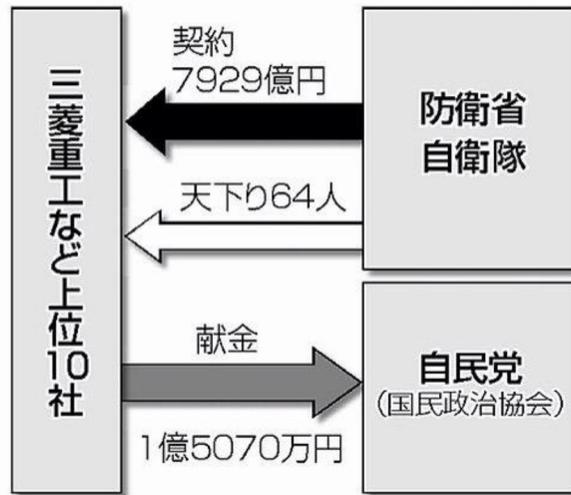
今、京都大学の学生自治会が10月27日の反戦ストライキを宣言し、この秋の反安保闘争を引っ張っていくとしていきます。

「安保関連法強行採決後の闘いをどう進めていくか」で、この夏立ち上がった人びとは岐路に立たされています。一部の勢力は「来年夏の参院選で与党と野党が入れ替われば安保関連法はつぶせる」といい、「野党議員が野党共闘を作れるように国民は支援しよう」と言っています。共産党などはその先頭に立ち「大

りの上層部だけで決定し、現場の多数派である教員・職員・学生らから、一切の大学運営に関わる発言権・決定権を奪っていること。この支配の構造にあります。

広大の経営を支配する上層部＝経営協議会には、学外委員として三菱重工業相談役・佃和夫氏を始め、産業界と政界の重鎮

軍需産業と防衛省、自衛隊、自民党の癒着の構図



〔注〕防衛省提出資料と政治資金収支報告書から井上事務所調べ

たちが名前を連ねている始末です。広大経営協議会の形式上のトップである越智学長は、学内からの選考ではなく、こうした学外委員の選考で広大学長に抜擢された人物であり、彼らの言うがままに広大の運営を進めています。

しかし、それは不安定で危機的な体制だとい

ことです。今回学生自治会からの「申し入れ書」をかたく拒否した背景には、広大教職員組合から学長選挙の不正解明・選挙自体のやり直しが求められてきたにもかかわらず、この春から強引に学長に就任した越智学長体制の、危機の深さが表れています。学内からの声を踏みにじってきた自覚があるからこそ、学生自治会が選挙で信任を得て活動していることを正視するべきなのです。

建学の理念に「平和」を掲げている広島大学は、安倍政権の「積極的平和主義」の名のもとでの戦争動員を、拒否するか加担するかの分岐点にあります。学長と学生との公開討論会を開き、学長の口から真意を語ってもらいましょう！ そのためにも学生はストライキを構えて大学と交渉しよう！

# すべての学生・労働者と団結して闘おう

胆な妥協」といって日米安保も自衛隊も「容認・活用」の方向に、思い切つて舵を切る、と。確かに「議席を確保する」上では現実的かもしれませんが、しかしそのために政策を変更するのであれば、結局与党と同じではないですか。

このような野党議員の数合わせ（票合わせ）の運動に戦争反対の運動の流し込むことは、まったく誤りです。実際に戦争を止めるのは、実は社会の現場を動かしている日常からの戦争協力拒否の

闘いです。それは戦争だけでなく、他人の労働の成果の上にふんぞり返つて、自分は何も生み出していない一握りの支配者・政治家たちではなく、生産者自身が政治の主体になっていく過程でもあります。

ストライキで戦争を止め、すべての人間が人間らしく、誇りを持って生きられる社会をつくっていきましよう。大学・学生もその担い手として、キャンペーンからストライキを実現しよう！

- 11・1（日）全国労働者総決起集会@東京（集会・デモ）  
 「戦争協力拒否」のストライキで闘う労働組合が、日本のみならず国境を越えて世界各地からもやってきます。
- 派遣法撤廃！非正規雇用をやめろ！
  - 道州制＝公務員労働者360万人首切り許すな！
  - 国鉄1047名解雇撤回！
- 関心ある方はオモテのメールに連絡を！